



春の稜線漫歩

上信会越 銅倉尾根～下津川山

山川

【日時】 2008年4月19日-20日

【メンバー】 栗原（L）、山川

それにしても、眠い。タクシーに乗ってすぐに、目がとろとろと落ちてくる。しかし目の端に淡い鶯色がちらりと飛び込んできて、一機に覚醒した。窓に顔を近づけると、そこかしこに満開の桜、また桜。色味の異なる山桜と新緑も美しかった。至福のいつときを過ごし、桜が途切れた途端にまた睡魔のとりこになる。25分でダム管理棟に着いた。

ふきのとうがそこかしこで芽をだして、雪解けの水がほとぼしっている。山を彩る芽吹きと、霞む空のあわいを、ぬくみを帯びた風がそよいでいる。春だなあと実感する。

十字峡の橋を渡り、トンネルをくぐり、尾根末端から高度にして100mほど水道脇の階段を上がる。栗原さんはやはりさくさくと息切れもせずに登っていき、私はあとからぜいぜい着いていく。半ばを過ぎたころだろうか。何やら切々と胸をうつような哀切な調子の歌が聞こえてくる。こんな場所で？と不思議に思い耳をすます。男性が高音でペルシャの民謡でも歌い上げているような…??階段と併走している直径2mほどの太い水道管から聞こえてくるようだ。本当にとてつもなく悲しい。国を離れて、日本に住まう中近東の方が、先ほどのトンネルの中で、故郷を思って古歌を口づさんでいるのだろうか?…大真面目に悩んでいると、頂上でなんとなく真相解明した。スイキンクツのような水と水路の奏でるハーモニーのようである。自分の無知さ加減に脱力する。

その後は懸念したような藪でもなく、ぐずぐずの雪に足をとられるでもなく、岩鏡に縁取られた踏み跡をたどりながら快適に高度をあげる。1000mを越えるあたりから徐々に雪道となり、稜線にでた。視界は靄のかかった灰色の空に覆われているが、当初覚悟していたような雨に打たれての侘しい行程でないだけありがたい。

今日は朝ごはんが納豆巻き1個、行動食が納豆巻き1個、お昼ご飯が納豆巻き1個。これで全部である。昨晚立ち寄ったコンビニは、普段よりむしろ豊富な品揃えでなんでもあったのに、どうも半分寝ぼけながら買い物したらしい。仕方なく納豆を食べながら、栗原さんと二人、のどかな春の気色に身をひたす。雪の季節を名残惜しく思いながら、春の到来が嬉しくてならない。もう沢の季節だなあ。

いつまでもこうしていたいのが、先も長いので腰をあげる。体力不足で栗原さんの早い歩調には着いていけず、要所で待たせてしまうのが申し訳ない。しかし適度な雪の硬度と、涼しいくらいの陽気で行程は快適である。高度があがるに従い視界は徐々に狭まり、1500mあたりから雲の中に入った。およそ視界80mくらい。運動場のような広く平らな桑ノ木山にさしかかる。こんなところで『トマの風・大運動会』など開いたらおもしろいだろうな、と妄想していると、気付けばネコブの頂だった。そのまま足を止めず、左手の雪尻に気をつけながら下津川山へ続くコルまで下る。このあたりに幕営予定だったが、まだ14:00である。時間も余っているので協議する。黒い藪とずたずたの雪の割れ目を見ると、今日はここまででよいと思ったが、栗原さんの熱意に押され、先へ行くことにする。雪崩は怖いし、藪はひどいし、いっそうゆっくりになる私に反比例して、栗原さんの歩みは飛ぶように速い。藪を

<http://www.tomanokaze.dojin.com/>



這い、ずたずたの雪を迷路のように縫いながら歩くこと 2 時間。細い稜線を抜けて、下津川山手前のなだらかな丘陵部に達した。16:00 1750m 地点の雪と藪の狭間に小さな 2 人テントを設営し落ち着く。藪漕ぎで体中すっかり濡れそぼってしまった。

今日は軽量化のため二人ともお酒なしだが、熱い抹茶ミルクが体中にしみわたって、ほへとひといきつく。バンバンジーとジフィーズ豚汁で夕飯を終えても外はまだぼんやりと明るい。日が長くなったのを実感しながら、おしゃべりは果てることがない。明日にそなえ 7 時には就寝する。

4 時起床。5 時出発。視界は 10m くらい。下津川山はすぐそこである。昨日のうちにここまできておいてよかったね、と栗原さんがつぶやく。確かにこの視界では、ネコブからの稜線に難儀しただろう。当初はここから小穂口ノ頭～中尾ツルネ～三国川林道を経て十字峡へ戻る周回ルートの予定だったが、先輩方に林道の状況が非常に悪いことなどアドバイスをいただいて、今回はこのままピストンすることにした。5:40 山頂から引き返す。

栗原さんの歩き方が少しおかしい。プラブーツのベロがずれて右足を痛めてしまったようだ。バンダナとテーピングをぐるぐる巻いて固めるが、やはり痛そうだ。途中何度かテーピングを直しつつ、ペースはそのままに歩き出す。こんなときの痛みは神経にびりびりくるのでつらいものだが、栗原さんは表情に出さずに速度は落とさない。そのすごい脚力に改めて脱帽する。再びつらい藪道に戻り、ネコブを過ぎると、あとはゆるゆると下りるだけである。少しづつ回復しはじめた視界に、気分もなごんで、のんびりと稜線散歩を楽しむ。

あの水色の階段を下り、トンネルをくぐって、十字峡で大休止。晴れ間がのぞき、ダム水面がまぶしい。ダム管理棟でタクシーを呼び、干し物をしていると、次々と観光客の車が上がってきた。

タクシーからのお花見を楽しみつつ、六日町駅に着くと、ダッシュで商店街横の中央温泉に駆け込んで、猫の行水で汗を落とす。30 分で戻らないと、次の電車まで 1 時間待ちなので、必死である。なんとか間に合い、越後湯沢へ。15:00 過ぎの MAX に乗り込んだ。スルスルと動き出してはっと気付くと、この車両は 2 人だけの独占状態だった。つつましくも最後部にちょこんと座を占めつつ、『わーい、贅沢だ〜。』と、喜ぶ小市民が二人。

のどかな春山山行だった。

【行程】 4/19 7:20 ダム管理棟～8:15-30 十字峡～10:30 1150m～11:40 1475m～桑ノ木山
～14:00 ネコブ山先のコル～16:00 下津川山手前コル

4/20 5:05 コル～5:40 下津川山～8:00 ネコブ山～12:50 ダム管理棟

【地形図】 兎岳・奥利根湖